

## 現場の薬剤師から薬学会に期待する

児玉 孝

日本薬剤師会 副会長

Takashi KODAMA, Japan Pharmaceutical Association

日本薬学会第125年会・特別記念講演会「医療のスペシャリストが日本薬学会へエールを送る」にお招きいただき光栄に存じます。

日本薬学会におかれましては、薬学教育モデル・コアカリキュラムの作成にご尽力され、薬学教育6年制の実現への端緒を開かれたことに深く敬意を表します。

明治時代から長らく、我が国の薬学教育は薬剤師の養成教育を軽視してきた歴史がありますが、これを契機に職能教育（Professional Education）と学術教育（Academic Education）のバランスを適切にとっていかれることを節に希望いたします。

来年から始まる薬剤師養成教育6年制は、薬剤師の能力を画期的に向上させると確信しています。また、6年制卒の薬剤師が現在の4年制卒の薬剤師と同じ職能しか発揮できない状況では、6年制にした意義がないことも日本薬剤師会は十分に認識しています。

6年制卒の薬剤師にはそれに見合った職能の向上が必要であり、そのためには、①6年制卒業生は、4年制卒業生よりも卒業時に眼に見える実力差があるような教育を大学が実践すること。②6年制薬剤師に見合った職能が発揮できるように、制度上の保障を獲得すること。③薬剤師がいることが自分の健康・福祉に重要であると国民に納得してもらうこと（いわゆる「顔がみえる薬剤師」）。が極めて重要です。

日本薬剤師会は、6年制教育における長期実務実習が円滑に実施され、またそれが実のある成果を上げるべく、大学側との協力を惜しまない決意です。特に実施に当っては、全国のどの医療機関・薬局で実習しても、実務実習モデル・コアカリキュラムの内容がしっかりと教育されるシステムの構築に向けて、現在、薬剤師会内に実務実習委員会を設置して鋭意検討中です。その現状を本日紹介させていただきます。

これに関連して、最近の薬学部の新設にも我々は憂慮しています。無制限に薬剤師が増えることの弊害にも目を向けて下さい。また、実務実習を受け入れられる学生数には限りがあります。さらには長期実務実習では、従来の見学型から実務参加型に変換しますが、このことは患者さんのプライバシーを学生が知りえる立場になることを意味します。言い換えると患者さんは、よい薬剤師を育てるために我慢をしてくれているのです。一人の薬剤師を養成するには、指導薬剤師の熱意と汗だけでなく、国民の理解も必要で

あることを認識して下さい。

貴学会への要望として、薬剤師職能向上に関する支援研究を充実させていただくことを要望いたします。欧米における薬学部研究の大きな流れの一つに、薬剤師の職能が国民にとってどれだけの価値があるのかを、エビデンスから解析する研究があり、これらの研究成果が欧米の薬剤師の職能向上に直接結びついています。制度として薬剤師の職能を向上させるためには、国民に理解してもらうためのエビデンスに立脚した研究報告が望まれています。

今後の貴学会のますますの発展を祈願いたします。